



特定非営利活動法人 TICO(ティコ)
Tokushima International COoperation

2012年度 年次報告書

TICO(ティコ)はアジア・アフリカの
地域住民の自立を支援します

日本においては、人々が地球規模で考え
行動するきっかけや場を創ります

特定非営利活動法人



TICO

はじめに

TICO代表 吉田修

「徳島で国際協力を考える会」として発足したTICOが2013年11月23日をもって満二十歳を迎えます。これまで多くの人に支えられ、多くの人がスタッフとして活躍し、巣立って行かれました。ザンビアやカンボジアでも多くの人々に出会い、共感し、支え合い、幸い大きな事故もなく活動することができました。これまでTICOに関わってくださったすべての方々に心から感謝いたします。

TICOの活動を通して、我々も少し広い視野を持つことを学び、先進国と呼ばれる我々の見方が正しいとは限らないことを知りました。これまで開発、成長と言った言葉で表されたことが、本当に良いことなのか再考する時代だと教えられました。人類発祥の地、アフリカの村で日々慎ましく自然と共に生きる人々に教えられることばかりでした。生も死も受け入れ、干ばつも大雨も受け入れ、しなやかに与えられた今日を生きて、今の我々が忘れてしまった生

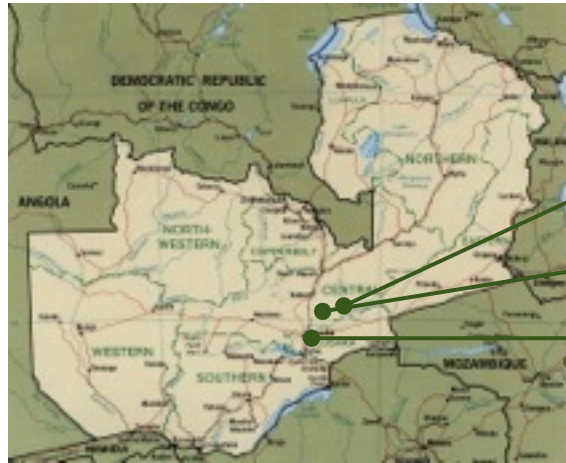
き方ではないでしょうか。最近では先進国でも成長の限界が見え、地方が見直され、少し昔を思い出すような新しい生き方を模索する人が増えているようです。

これからのTICOは、先進国/途上国の枠を超えて、地球が疲弊してしまわないような普遍的な次世代の生き方、新しい文明を構築するような活動をしたいと考えています。今後ともご支援をどうぞよろしくお願い致します。



ザンビア事業報告

アフリカ南部の内陸部に位置するザンビア共和国。主な活動地はチボンボ郡内にあり、首都ルサカから北東へ約100キロメートルに位置しています。英語で水、農業、医療・健康、教育の頭文字をとって名付けられたWAHE(ワヘ)プロジェクトを活動の軸に、持続可能な干ばつに強い村を目指した、総合的な農村開発、自立支援を行っています。



中央州チボンボ郡チペンビ

中央州チボンボ郡モンボシ

首都ルサカ

[ザンビア共和国地図]

1. 干ばつに強い村づくり WAHE (Water, Agriculture, Health, Education)

中央州チボンボ郡チペンビ、モンボシ

(1)事業の背景・目的

<総合的なアプローチ「WAHE(ワヘ)」>

2002年、ザンビアは大規模な干ばつに襲われました。TICOは南部州において飢餓対策緊急援助を行いました。飢餓は、単一の原因ではなく複雑な要因が絡み合っ引き起こされる、という結論に至りました。そこから、WAHE(水:Water, 農業:Agriculture, 医療・健康:Health, 教育:Education)の4つの分野を中心に、干ばつに強い村を作っていこう、農村の暮らしを総合的に良くしていこうというコンセプトのもと、WAHE(ワヘ)プロジェクトは開始されました。

(2)活動内容

1) 農村開発ローン支援

▷対象:チペンビ地区周辺住民グループ

(3)本年度の成果

<最後の1グループが完済>

昨年より返済を続けていた1グループ(養鶏)が予定通り完済し、事業終了となりました。

(4)課題と今後の見通し

<事業終了>

チペンビ地区でのローン事業および農業事業での経験・教訓をモンボシ地区での母子保健事業および後継案件に生かしていきます。



▶養鶏プロジェクト

2. 農村部教育機会向上事業 WAHE (Water, Agriculture, Health, Education)

中央州チボンボ郡モンボシ

(1)事業の背景・目的

<教室や学校の設備を支援>

干ばつに強い村の未来を担う子どもたちへの教育は大変重要です。しかし、公立学校の数に限られており、定員オーバーで学校に通えない生徒が数多く見受けられます。初等教育を受ける機会を与えられず、一日の大半を水汲みや家族のための仕事に費やすことも珍しくありません。そこで、地域の人は地元コミュニティースクール(地域住民が自主運営する学校)を立ち上げますが、教室、トイレ、黒板、机・椅子など学校の設備は不備・不足しており、教師の数も不十分であるところが多いのが現状です。農村地域の教育現場の改善を目指し、学校の整備やハード面を支援しています。

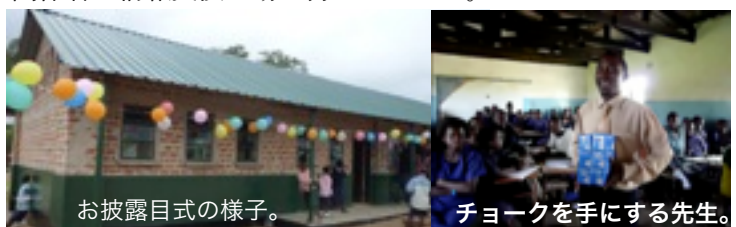
(2)活動内容と成果

<お披露目式挙行>

2010年度より公益社団法人セカンドハンドから資金協力を受け、モンボシ地区ンコンジェ村におけるコミュニティースクールの校舎建設が完了したのに引き続き、教員宿舍とトイレ等の建設作業もすべて終了し、11月28日に地元住民およびチボンボ郡関係者へのお披露目式が行われました。今後の建物の管理運営は地域住民が責任を持って行うようになります。

また、昨年度の教科書支援に引き続き、徳島県吉野川市立森山小学校からのご寄付でチョークを購入しモンボシ地区のコミュニティースクール9校に寄贈しました。

鳴門教育大学教員及び学生により、環境教育や算数の授業が実施されました。同時に授業見学も行われ、現地学校関係者と情報交換の場が持たれました。



お披露目式の様子。

チョークを手にする先生。

<2012年度の主な成果>

・コミュニティスクールのお披露目式挙行！

地域住民で造るコミュニティスクール（小学校）の校舎完成後、教員の家とトイレの建設などすべてが完工し、お披露目式が行われました。

（公益社団法人セカンドハンド助成事業）

・お産を待つ家（産前簡易宿泊所）オープン！

2012年11月にお産を待つ家（産前簡易宿泊所）の開所式が行われました。

・TICOザンビア事務所／事業地を訪れた方は約40名！

TICOユースを始めとする国際協力や途上国での開発に興味のある学生や徳島新聞社（JICA地方マスコミ派遣）など、多くの方々に訪れていただきました。



【ザンビア事業従事者】

吉田修（プロジェクトマネージャー）

田村幸根（保健医療専門家）

瀬戸口千佳（業務調整員）



▲お祝いの食事を準備するお母さんたち。

▲新しい教室を一目見ようと集まる人たち。

(3)課題と2013年度の見通し

政府からの有資格教員の派遣や、公立学校への格上げ、小学校卒業認定試験が実施できるよう、引き続き見守っていきます。

また、森山小学校からの寄付金を中学生の学費として支援できるような仕組みを作り、少しでも多くの子どもたちが学校へ行けるよう支援していきます。

今後、鳴門教育大学とは教育のソフト面の強化につながるよう連携していきます。

3. 農村部保健医療改善事業 ～チボンボ郡地域住民が支える 安全な妊娠／出産の支援事業～ WAHE (Water, Agriculture, Health, Education)

【JICA草の根技術協力事業】
中央州チボンボ郡モンボシ

(1)事業の背景・目的

<安全な妊娠／出産ができる環境を>

チボンボ郡モンボシは、首都から約100キロメートル北に位置する農村地域です。保健医療の施設も物資も人材も慢性的に不足している現状にあって、住民が自らの健康を守るしくみをつくり、これが機能するための最低限の施設・物資・人材を確保するべく、2007年8月より3年間プライマリーヘルスケア事業を展開しました。

2010年10月からは、さらに課題の多い妊産婦保健に焦点を当て、モンボシ地域の妊娠出産をめぐる状況が改善し、安全なお産が可能となる環境を整えるべく、母子保健事業を実施しています。

本事業は独立行政法人国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業として、2010年10月～2013年9月までの3年間の予定で実施されます。

(2)活動内容

<住民自らが妊産婦保健に取り組む>

地域単位で妊産婦保健に関わる各種保健活動が実施できるよう体制を整え、住民自らが妊産婦保健の問題点を把握し、解決できる力を養います。

1) 安全なお産支援グループ（SMAG）養成

▷対象：モンボシと周辺9地区

2) 栄養・妊娠・出産についての健康教育

▷対象：モンボシと周辺9地区の地域住民、特に妊娠

適齢期の女性

3) 妊産婦をめぐる保健問題の改善

▷対象：モンボシと周辺9地区の地域住民

4) 産前簡易宿泊所の建設【自己資金対応】

▷対象：モンボシと周辺9地区の妊産婦とその家族

(3)本年度の成果

<活発な妊産婦保健教育活動>

伝統的産婆や住民ボランティアで成る安全なお産支援グループ（Safe Motherhood Action Group、以下SMAG）メンバー全員に対して、知識のリフレッシュ連続講座を実施し、昨年度設置したモニタリング・評価委員会が定期的に活動の調査を自分たちで実施しています。さらに、KAIZEN活動を導入し、SMAGたちの力で課題解決を模索し、チームワークの強化につなげていきました。

また、各学校に若年妊娠予防のための性教育活動グループ（ピア・エデュケーター）を育成し、成果発表として学校対抗のイベントを行いました。

このような活動を支えるSMAGのメンバーたちは無償のボランティアです。活動にかかる経費を自分たちで捻出し、SMAGの活動が円滑に進められるよう、回転基金ローンを導入し、ローンの仕組みと会計に関する研修を行いました。

▶研修の様子。



＜お産を待つ家完工＞

施設で分娩したいという希望はあっても、陣痛発来後に自宅からヘルスポストまでの移動手段の確保が困難なため自宅出産に変更することや、移動に時間がかかりすぎ途中の道端で出産してしまうことが多々見られます。そこで、妊婦が陣痛発来前から待機できる産前簡易宿泊所「お産を待つ家」の建設を進めていましたが、2012年4月に完成し、11月に開所式を行いました。現在は郡保健局と連携の下にその運営を支援しています。

また、徳島新聞社（JICAマスコミ派遣）の現地取材もしました。



▲完成したお産を待つ家。



▶開所式の様子。

(4)課題と2013年度の見通し

養成されたサブメンバーを含むSMAGメンバーの活動が地域に根付き確固たるものとなるよう体制を整えるとともに、メンバーの知識を維持、向上していくための更なるリフレッシュ研修を引き続き開催します。加えて安全な出産の確保、妊産婦の知識向上を目指します。

また、若年妊娠予防のための性教育活動（ピア・エデュケーション）を引き続き行い、酋長を含め村長等、村で影響力を持つ人々を対象とした妊産婦保健ワークショップを実施します。

お産を待つ家の運営支援を行い、看護師及び他の医療スタッフとの協力体制の再構築を図っていきます。そして、2013年9月末のプロジェクト終了時には調査を実施し評価を行う予定です。

4. ゾンベ貧困地区民生改善事業

ルサカ市ゾンベ地区

(1)事業の背景・目的

1997年7月よりルサカ市に多数存在するコンパウンド(低所得者層居住区、貧困地区)の1つであるゾンベ地区において、子どもたちの栄養改善を目的として事業を実施してきました。しかしこの目的を達成する為には貧困を含む社会的要因が大きく絡んでいることから、2000年より子どもの栄養状態改善及び地域社会の特に女性の能力開発を目的とした民生改善プロジェクトへと発展し、現在に至ります。

(2)活動内容と成果

＜コミュニティスクール運営支援＞

ゾンベ地区の女性住民へ裁縫や栄養教室を通じた技術移転を実施していますが、受講者が増加していることを受け、現在、新しい教室を増築中です。学校行事としてスポーツ大会、卒業式、遠足、タレントショーが開催され、パソコンを取り入れた授業は今年で3年目に入りました。

本事業はザンビア人により自主的に運営され、授業料や裁縫作品の販売等で運営に必要な収益を上げていますが、教員含むスタッフの給与の支払いや増築のための資材購入が困難な場合があるため、TICOからは運営資金を支援しています。その他、コミュニティスクールの運営委員会のメンバーとして、活動内容や運営方針に係る協議に参加し、間接的な支援も継続して行なっています。

＜配車支援＞

彼らが独自に実施している洋裁教室の作品販売など、所得創出活動、文化祭等の学校行事の実施や卒業試験会場までの送迎、必要な物資の運搬作業を行うためのトラック配車等の支援も引き続き実施しました。

＜栄養教室出張講座＞

チボンボ郡モンボシ地区で実施されている安全な妊娠／出産事業と連携し、栄養教室を実施しました。本校から講師が派遣され、お母さんや子どもの栄養改善について講義が行われました。

(3)課題と2013年度の見通し

次年度も資金面や配車の支援、運営委員会への参加等の事業運営支援を実施します。また、モンボシ地区へ出張講座も引き続き実施し、若い女性や母親へ栄養や健康に関する知識の普及を拡大させていきます。



▲講師のチャウ・イブリン副校長先生。



▲栄養教室出張講座の様子。



カンボジア事業報告

東南アジアに位置するカンボジア王国。ザンビアで成果を上げてきた救急事業の経験を生かし、首都プノンペン市西部地区を中心に2008年より救急医療支援活動を行っています。



首都プノンペン市

スヴァイリエン州

[東南アジア地域地図]

【カンボジア事業従事者】
渡部豪（保健医療専門家）

- ＜2012年度の主な成果＞
- ・医療者の人事交流：医療者の日本招へいを1回、専門家のカンボジア派遣を2回実施
 - ・継続した啓発活動：自発的に救急対応に関する啓発活動が展開

1. プノンペン市医療従事者救急対応力向上事業

【公益社団法人セカンドハンド協働事業】
プノンペン市西部地区

(1)事業の背景・目的

＜医療従事者の技術向上のために＞

低所得者層の人々も適正な価格で公正に救急車を利用できるようにするため、2008年より公益社団法人セカンドハンド（本部・香川県）と協働で、公立病院であるポチェントン病院とプノンペン市市民病院において、救急対応に関する技術向上支援を行っています。



▲6月に実施した招へい研修の様子。

(2)活動内容と成果

救急隊の訓練に加え、公的医療機関における医療従事者の救急対応能力向上のための研修を実施しています。7月には日本から専門家を派遣し、外傷処置や救急治療の初期段階の重要性に関するトレーニングを、2月には「大血管疾患の救急」についてのワークショップを行いました。また、6月にカンボジアより医療従事者2名を日本へ招へいし、香川県立中央病院や高松消防局、さくら診療所（徳島県吉野川市）などの協力を得て、救急対応に関する実践的な研修を実施しました。専門家の派遣と日本への招へいを組み合わせることで、より指導的な立場になる人材が育ってきています。

(3)課題と2013年度の見通し

＜技術能力維持・向上のための研修＞

昨年度と同様に救急医療の中心となっている医療従事者を日本に招いて研修を行い、現地にも日本人専門家を短期間派遣して研修を実施できるよう、引き続きセカンドハンドと連携していく予定です。

2. 住民啓発事業

プノンペン市西部地区／スヴァイリエン州

(1)事業の背景・目的

カンボジアでは「119」に連絡すると全国どこでも無料で救急車がかけつけるといった制度が整備されていません。また、医療機関においても救急時の対応に関する適切な知識が乏しい状況で、一般住民においても「応急処置」に関する知識がなく、誤った処置により症状を悪化させるなどの状況が生じていました。

事故が発生した時に、適切かつ最低限の応急処置を受け、適正に転院・搬送が行われることを目標に、2008年1月から3年間、低所得者でも利用できる救急搬送体制の構築、救急対応ガイドラインの策定、公的医療機関における医療従事者のトレーニング及び地域住民の救急医療についての啓発活動を実施してきました。2011年からは主に啓発活動を支援しています。

(2)活動内容と成果、今後の見通し

公的医療機関が主催する地域住民対象の応急手当や救急対応に関する啓発活動を支援しています。地域住民、警察を対象に活動が展開されており、セカンドハンド活動地であるスヴァイリエン州にて地域住民、医療従事者、警察を対象としたワークショップが現地で開催されました。今後も医療従事者救急対応力向上事業と合わせて啓発活動を支援します。



▲地元住民等を対象とした救急対応の啓発ワークショップの様子。

1. 地球人カレッジ

「地球規模で考えながら地域から活動していく」きっかけになる機会を一地方である徳島で提供すべく、毎月1回「地球人カレッジ」と称したセミナーを開催しています。1997年から続くTICOの原点ともいえる国内活動で、2009年9月からインターネットで中継を開始しています。

【2012年度地球人カレッジ実績】

日時	テーマ	講師
4/22	世界と日本のエコビレッジ ～人と地球、共にハッピーになる暮らし方～	佐野淳也さん (グローバル・エコビレッジ・ネットワークオセアニア&アジア理事)
5/26	北朝鮮との向き合い方(訪朝報告) ～相対的に、合理的に、大局的に考えよう～	饗場和彦さん (徳島大学総合科学部教授)
7/14	チェルノブイリに見る日本の過去と未来 ～循環型調和の危機～	宮崎信也さん (高野山真言宗・般若院住職)
8/24	地域医療から国際保健へ	加藤琢真さん (NPO法人GLOW代表)
9/29	自由バンザイ・福島に誇りを	井下俊さん (日本イラク医療支援ネットワーク：JIM-NET理事)
10/6	カンボジア救急の現状 ～救命への道～	渡部豪 (TICO理事)
11/23	はじめてのザンビア ～TICOユースザンビア訪問報告～	大橋 瑞紀さん (滋賀医科大学医学部医学科3年) 小淵 香織さん (徳島大学医学部医学科4年)
12/15	村人と共に歩む ～2012年TICOザンビア事業報告～	瀬戸口千佳 (TICOザンビア業務調整員)
1/26	ミャンマーよもやま話 ～Healthy Villageプロジェクトの取り組みや、昨今のミャンマーの様子など～	竹久佳恵さん (AMDA社会開発機構)
2/22	世界の炭人がゆく～意外な炭の使い方～	渡辺一弘さん (徳島炭市場)
3/30	激動の時代をむかえて地球市民として生きる～Think Globally, Act Locallyの再考～	吉田修 (TICO代表理事／さくら診療所理事長／市民がつくるエネルギー代表)



▲7月(左)と3月(右)の地球人カレッジ。

2. 講師派遣事業(出前講座)

教育機関、市民団体等へTICOスタッフを講師として派遣し、講義やワークショップを通して地球市民教育を行っています。今年度は18の学校や機関等から講師派遣の依頼がありました。

【2012年度講師派遣実績】

日時	依頼先	実施内容
4/18	宮崎大学	地域医療学① 地域医療学②
5/8	徳島大学	国際協力論(ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」)
5/15	徳島大学	国際協力論(TICOの紹介)
5/25	徳島県損害保険代理業協会	東日本大震災からの学び
6/22	吉野川市社会福祉協議会	TICOの活動紹介
7/4	愛媛大学	国際協力論(TICOの紹介)
8/19	青年海外協力協会	宇宙ステーション
8/31	島津製作所	TICOの活動紹介
9/21	横浜市立大学	TICOザンビアの保健医療活動紹介
9/23	日本WHO協会xjaihs(日本国際保健医学学会学生会生部)	日本の地域医療から国際保健のフィールドでの生き方を考える
10/23	高知南高校	TICOの紹介 ～アフリカとのつながり～
11/2	四国大学	ガーナ紹介
11/8	香川大学	国際協力論(TICOの紹介)
11/17	JICA四国	アフリカでの基礎教育支援～課題と展望～
11/30	鳴門中学校	東日本大震災とザンビア支援(国際交流)
12/8	山川町公民館祭	大震災と原子力発電
12/18	高知南高校	ザンビアで働くTICOスタッフによる事業及びザンビアでの生活について学ぶ
1/20	賀川豊彦記念館	ザンビアの現状と日本国憲法から読み解く日本の役割
1/22	高知南高校	世界の社会構造がいかに不均衡か
2/12	高知南高校	宇宙船地球号
2/15	神宅小学校	チャレンジアフリカ
3/1	徳島大学	医学概論
3/1	森山小学校	みんなの支援はザンビアでどのように役立っているだろう?
3/13	高知南高校	世界とのつながりについて考え、自分の生活スタイルを見直す

<2012年度の主な成果>

- ・ **地域とのつながりを強化**：昨年度に引き続き、地元のイベントに積極的に参加し、地球人カレッジでは、地元で活躍されている講師の方々に依頼し、地域とのつながりを深めました。
- ・ **JICA研修員受入れ**：JICAの集団研修事業の受入れを実施し、徳島県内にて実地研修を行いました。

3. TICO合宿(青少年育成事業)

吉野川市山川町にある環境に配慮した宿泊施設で、集中的に国際協力や持続可能な循環型社会について学ぶ機会を提供しています。個人や一般の方にも気軽に参加していただけるよう、公募で合宿を年2回開催しています。



▲合宿の様子。早朝は有機野菜畑での農作業体験。

【2012年度合宿受け入れ実績】

日付	参加団体	日付	参加団体
7/14～16	第5回公募型合宿	9/28～30	Tuktuk合宿
7/26～29	瀬戸塾合宿	10/6～8	第6回公募型合宿
8/24～26	NITW合宿	1/2～13	IFMSA合宿

4. 情報発信、イベント参加等



地域とのつながり・関わりが広がり、ますます地域のイベントに積極的に参加しています。毎年恒例の「わらび」

【2012年度イベント参加実績】

日付	イベント名	場 所	内 容
4/12	TICOバザー	さくら診療所	バザー
7/7	TICOバザー	さくら診療所	バザー
10/20	第9回吉野川市ふれあいフェスティバル	アメニティー	パネル展／バザー
11/1	ゆず畑手入れ	木屋平	草刈り
11/17	ゆず狩り第1回目	木屋平	
11/23	世界の踊りフェスティバル「体感！友好交流ストリート」	アスティとくしま	パネル展
11/28	ゆず狩り第2回目	木屋平	
2/25	フリーダンスフェスト	鳴門市ドイツ館	パネル展／バザー
3/17	ゆず畑手入れ	木屋平	剪定

の会」主催によるゆず狩りに加え、ゆず畑の手入れにも参加しています。

「お産を待つ家」開所式や「ンコンジェ・コミュニティ

スカラーのお披露目式については、日本のメディアだけ

日付	媒 体	取材対象
4/1	JICA's World特別号	TICO/さくら診療所
6/13	なんとかしなきゃ！資料室 「地球環境問題② 限りある資源 を守らなきゃ！」	TICOの取り組み (干ばつに強い村作り)
8/1	開発教育協会 DEARニュース	吉田修
11/1	全国保険医団体連合会 「月刊保団連」	吉田修
11/9	徳島新聞（朝刊）	TICOザンビア事務所 お産を待つ家について
11/10	毎日新聞（朝刊）	TICO国内 ゆず狩りについて
11/11	POST（ザンビアの新聞）	TICOザンビア事務所 お産を待つ家について
11/30	日本WHO協会 目で見えるWHO「国際保険医療と 地域保健医療」第50号	吉田修
12/1	Time（ザンビアの新聞）	TICOザンビア事務所 ンコンジェ・コミュニティ スクールについて
1/4	徳島新聞（朝刊）	瀬戸口千佳

ではなくザンビアの新聞にも掲載されました。

また、この他に地球人カレッジやイベントのお知らせが、毎日新聞、徳島新聞やタウン誌「月刊あわわ」に数回掲載されています。

【2012年度受講講座】

日付	セミナー名	日付	セミナー名
7/22	NPO法人新会計基準講座	2/9	とくしまNPOフォーラム
2/1	国際協力NGOのファンド レイジング公開セミナー	3/2	NPO法人新会計基準講座

<人材育成>

NPO法人新会計基準に対応するために「NPO法人新会計基準講座」の講座等の研修に参加し、組織運営の見直し改善に努めました。



し、徳島県各地で研修を行いました。ランを作成しました。

会計報告

収支の状況

～2012年4月1日から2013年3月31日まで～

(単位：円)

収支の部

会費・入会金収入	1,993,000
事業収入	22,384,061
寄付金収入	2,948,685
雑収入	1,379,655
収入合計(A)	28,705,401
前期繰越金	3,980,084
総計(B)	32,685,485

支出の部

海外事業	
ザンビア事業	13,279,302
カンボジア事業	500,724
国内事業	
会報・刊行物の発行	207,354
その他広報活動費	18,490
開発教育に関する事業	220,200
緊急雇用創出事業	115,172
徳島大学「国際協力論」	345,695
JICA研修員受入れ	1,240,805
管理費	2,787,713
その他	2,004,430
支出合計(C)	20,719,885

当期収支差額(A)-(C)	7,985,516
次期繰越収支差額(B)-(C)	11,965,600

貸借対照表

～2012年3月31日現在～ (単位：円)

資産の部

流動資金	
現金預金	12,031,521
流動資産合計	12,031,521
固定資産	
固定資産合計	0
資産合計	12,031,521

負債の部

流動負債	
預り金	65,921
流動負債合計	65,921
固定負債	
固定負債合計	0
負債合計	65,921

正味財産の部

当期賞味財産増減額	7,985,516
正味財産合計	11,965,600
負債及び賞味財産合計	12,031,521

役職員名簿

【代表理事】

吉田修

【監事】

萩森健治

【理事】

福士庸二

渡部豪

饗場恭子

近森憲助

田淵幸一郎

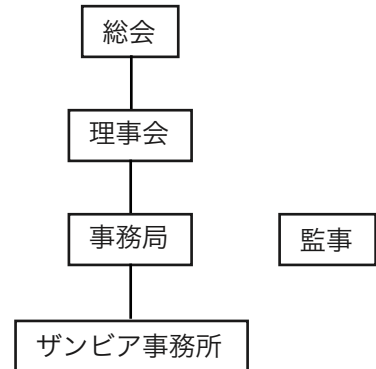
【事務局】

福士庸二 (事務局長)

庄田多江 (事務局員)

近森由記子 (事務局員)

組織図



団体概要

団体名	特定非営利活動法人TICO (ティコ)
設立	1993年11月23日
団体資格	特定非営利活動法人 (2004年9月6日認証)
所在地	〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4
連絡先	Tel/Fax : 0883-42-2271 Mail : info@tico.or.jp Web : www.tico.or.jp
会員数	正会員 11名 賛助会員個人 152名 賛助会員学生 23名 賛助会員団体 20名 計206名

2013年3月31日現在



特定非営利活動法人 TICO(ティコ)事務局

2013年6月発行